

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

保育園番号 66-0959

園名 うめのき保育園

1. 活動のテーマ

《テーマ》
シイタケ栽培

《テーマの設定理由》

食育、自分たちで育てたものを食べる経験、経過を追って観察する



2. 活動スケジュール

- ・ 10月24日～栽培開始。
- ・ 10月28日3本生えてきたことに子どもたちが気づく。（3日後大きくなならないまま落ちてしまう。）
- ・ 11月8日に2本シイタケ生えてくる。
- ・ 11月11日栄養士と相談し15日に食べることにする。
- ・ 11月15日大きくなった2本のシイタケを収穫し食べる。
- ・ 11月18日2度目の収穫のために水に1日付ける。
- ・ 11月26日にいっきに生えてくる。
- ・ 11月29日に2度目の収穫。部屋に栄養士を呼び子どもたちの目の前で調理してその場で食べた。

3. 探究活動の実践

《活動の内容》

用意したもの

- ・ シイタケ栽培キットの用意
- ・ 観察用のケース
- ・ キノコの絵本

(生えてくるまでの子どもの姿)

- ・ シイタケを子どもが毎日観察できるように見やすいお部屋の中に設置した。毎日水をあげ1日のどこかでシイタケの話について触れたりお部屋にキノコの絵本を置いて子どもの興味関心を深められる様に工夫した。
- ・ 食事の際に「今日のスープにキノコが入っているね」と会話の中でキノコに触れた。子どもも「このきのこは何のきのこ？」と聞いたりシイタケ以外にもきのこがあることを知ったり「お家で食べたことある！」と教えてくれる子もいた。
- ・ キノコの絵本を読み毒があるきのこもあることを知り見てみたいと呟く子もいた。
- ・ シイタケが育ったらみんなで食べてみようという話をするととても楽しみにする姿が見られた。
- ・ 油粘土で遊んだ時に時にシイタケを真似して作る子がいた。子どもたちの身近なものになっているように感じた。



(1回目の収穫)

- ・生えていることに気づいた子が大人に知らせに来た。その姿を見た他の子も実際に見に来て「これで食べられるね」と話したことを覚えている子もいた。いつ食べるのか、大人に聞く子もいた。
- ・「触りたい」と言う子が多かった。
- ・1回目の収穫の際、取る前にみんなでおいを嗅いだり触ってみた際、「くさい」「キノコの匂い」「おいしい匂い」「いい匂い」と声が上がった。
- ・収穫したキノコを事務所の人にも見せに行き、その後調理室まで運ぶ。
- ・お昼ご飯の際に調理してもらったキノコを醤油味でたべてみる。みんなで食べ「おいしい」「おかわりが欲しい」苦手な子は食べずに匂いだけ嗅いだりした。普段食べない子が食べる姿もあった。

(2回目の収穫)

- ・1回目の収穫後、栽培キットに子どもがジョーロで水を掛け水につけた後、元の観察場所に栽培キットをもどした。
- ・1週間ほどでシイタケが生え、生える速さと量が多く、子どもも「たくさん生えてきた」と嬉しそうだった。
- ・2度目はたくさん生えたので一人一つ収穫してみる。なかなか抜けず「硬いね」かさの部分に触り「やわらかいね」「くさいにおいがするよ」と様々。
- ・栄養士さんにお部屋に来てもらい、子どもの目の前で調理してもらう（事前に打ち合わせあり）フライパンにシイタケを入れ焼いてもらい、味付けはバター醤油とチーズの2種類（チーズ苦手な子がいた為）普段園では体験しない非日常的な活動に真剣に見つめる姿が印象的だった。
- ・お昼ご飯の前にシイタケを食べ、「おいしい」「チーズの味がする」「温かいね」と表情がさまざまだった。



4. 振り返り(保育士の気づき)

- ・シイタケを栽培することに対して初めは何か始まるという興味から近づいていた。キノコが生えてくることが分かれるとどの子もキノコに対して興味を持っていた。お部屋にキノコの本を用意し興味関心を深められる様にした。数名シイタケというキノコと理解していたが、色々なキノコの種類の中のシイタケという理解までは難しそうな印象の子もいた。一度目の収穫の時は出来上がったものを食べる経験をした。家庭で食べたことのある子は抵抗なく食べていたが、普段苦手な子は進まず匂いだけ嗅いでみる子もいた。苦手だが味付けのにおいにつられて（醤油バター）食べれた子もいた。